

消防団の活動 見つめ直そう

栗東 草津、守山、栗東、野洲の四市内の消防団員や家族ら三百人が集まり、消防団の活動や地域の絆を題材にした映画「ふるさとがえり」を鑑賞する催しが十八日、栗東市芸術文化会館まきらであった。

湖南広域消防局が地元消防団員らに地域の安心と安全を担う消防団を見つめ直すきっかけにしてもらおうと初めて企画した。

映画は、岐阜県恵那市を舞台に、地元の若者と、夢を求めて東京に出たものの、帰郷した若者が消防団の活動を通してふるさとへの思いを強くする物語。最後には心を通わす若者たちに、涙を流す消防団員もいた。

鑑賞した野洲市消防団の副団長を務める今井正三さん(左)は「団員のサウリマン化や高齢化は仕方がないこと。退団した人や地元の事業所とも協力して、映画のように住民のためにまちを守ってほしい」と気持ちを

新たにしていた。

全国の消防団員は今年四月現在、八十八万人で、二三年間で一万人減っている。湖南消防管区内では、六百八十八人が

所属し、団員の平均年齢が全国よりも四歳高い四二・九歳。野洲市内では、会社勤めで、昼の消防活動に参加するのが難しいサウリマン団員率が全国より13ポイント高い84・8%。団員のサウリマン化を受け、二〇〇九年十二月からは全国で、事業所がその所在地の消防活動に参加する取り組みも始まっている。湖南消防局管内では、八事業所で、二三年間で一万人が火事の際に機材の提供や団員の派遣をしてい

る。(山田千尋)

団員ら映画鑑賞し気持ち新たに

湖南広域消防局



映画「ふるさとがえり」を鑑賞する消防団員と家族ら＝栗東市芸術文化会館まきらで

昇

柔

中

中